

●博報賞

賞 状

児童の言語生態研究会殿

貴殿は国語教育に尽くされ
すぐれた業績をあげられ
ました

ここに博報賞を贈りその功
を顕彰します

昭和六十三年十一月三日

財団法人 博報児童教育振興会
理事長 近藤道生

●文部大臣奨励賞

賞 状

児童の言語生態研究会

あなたがたは財団法人博報児童
教育振興会主催第十九回博報賞
国語教育の部において優秀として
推薦されましたよって奨励のため
にこれを賞します

昭和六十三年十一月三日

文部大臣 中島源太郎

博報賞受賞趣意

功績概要

過去20年間にわたり、一貫して子どもの言語生活を基盤に、多様な角度から幼児・児童の言語の実態を調査し、その具体的解明をするとともに、言葉の奥にひそむ子どもの心の探究に力を注いできた。その成果は、国語教育の推進と発展に多くの示唆を与えている。

会の概要

■会の設立目的

国語教育の目的と方法及び実践確立の根本条件は、成育しつつある子どもの言語生態とも言ふべき基礎資料を得ることにある。現場教師はそれらの基礎資料を整えること以外に子どもに接触することの無意味さ無効力さを痛感している。われわれは微力なりとも相互に連絡協力して発達途上における子どもとの心とことばとの成長並びにその明暗を正確に写しとった貴重な資料を収集して、子どもの側からの発言を世に問おうとした。

■組織と会員数

レギュラー会員 56名、地方準会員 70名
幼稚園・小学校の現場教師を主とする

■会の主要業績・研究歴

(1)幼稚園・小学校の教師の現場でつくる雑誌として、子どもの日常性に注目、感情、思考及び意識の発達とともにある子どものことばの実態収集と、そのデータ化を、昭和43年より現在に至る20年間に13冊の同題名誌を刊行した。

第十九回博報賞授賞式 於 日本工業俱樂部 昭和六十三年十一月十八日
受賞者代表挨拶

謝 辞

本日は私どものために、晴の舞台を設定して頂き一同破格の栄誉を賜りました御高徳に対し謹んで御礼申し上げます。

大海原に散らばる一粒の貝の働きにも似た私どもの研究を拾い上げ、御推賞御愛顧下さいましたことは、ひとえに貴社が、広大なる展望に立たれ、深甚なる御愛情を御包みの故であると存じます。

知らんとして行う者は、好んで行う者にならず、好んで行う者は、楽しんで行う者にならずと申します。私どもの研究はまだ知らんとして行う未熟苦行の時代であります。本日の授賞を契機に、新たな勇氣と自信とを与えられ、次の好み楽しむ第二第三期への研究過程へ誘導されるように思います。

論語、額淵篇に人間は目に視ると、耳に聴くと、口に物言うと、身の動き働きの四つの理り有りと記しております。

今日の小学校国語教育の柱立てとの類似を思うのでありますが、似て非なりというか今日の国語教育の考え方の欠陥を言い当てていところが有るのです。それは、子曰、非礼視る勿れ、非礼聴く勿れ、非礼言う勿れ、非礼動く勿れと言うのです。人間の視、聴、言、動の在り方目的を訓えていると思うのであります。

本日の御恩情に應えるためにも、人間と言葉との諸問題を追求することに微力を尽すことを御約束申し上げます。

喜びの余り、駄句一つ

錦繡の 装束して立つ 野山かな

昭和六十三年十一月十八日

第十九回博報賞受賞者一同を代表して

児童の言語生態研究会主宰 上原輝男

財団法人博報児童教育振興会

理事長 近藤道生殿

(2) 同目的及び立場に立つ、言語生態の成育段階の課題を中心とする。研究授業を会員所属学校で継続的に実施し、97回を数える。

(3) 子どもの日常会話の中に言語生態の成育とかかわる発言を採集、ことばのスナップ集の整理体系化を試みた。

(4) 昭和55年58回全国大学教育学会において「国語教育の実験的研究——その課題と方法」について、「子どものけんか」(児童雑誌11号所収)を資料として提案した。

(5) 昭和57年より3年間、日本生命財団の研究助成による「子ども文化の文化人類学的研究」(国立民族学博物館教授岩田慶治を責任者とする協同研究)に参加。「子どもとイメージ」研究を担当した。

会の主要著書・論文・文集

● 児童の言語生態研究会誌、子どもの連想と仮想とほか
創刊号、13号 昭和43年、昭和63年

児童の言語生態研究会

● 国語科教育 28集 シンポジウム提案要旨

● 国語科教育 昭和56年 児童の言語生態研究会
はなちがナンでえー子どものことばの記録

昭和56年 童心社

● 子ども文化の原像——文化人類学的視点から(共筆)

昭和60年 NHK出版

● 世界の子どもの文化(共筆)

昭和62年 創元社

● 感情教育論——子どもの言語生態研究
昭和58年 学陽書房